

# サッシ等の遮音性能、熱貫流率及び気密性能に関し

## 試験体と同等の性能を有すると認められる評価品の範囲を定める基準

住宅性能評価機関等連絡協議会

(平成14年11月14日決定施行、平成15年12月1日改正施行)

### 1 総則

#### 1 - 1 定義

「サッシ等」とは、JIS A 4706 に規定するサッシ及び JIS A 4702 に規定するドアをいう。

「非木造住宅サッシ等」とは、主としてRC造、ALC造の住宅建築物に取付けられるサッシ等であり、枠を構造躯体に溶接等で固定し、かつ、当該枠と構造躯体の間にモルタル等を充填する取付方法のもので、耐風圧性等級（JIS A 4702 及び JIS A 4706 で規定。以下同じ。）がS-4以上であるものをいう。

「木造住宅サッシ等」とは、主として木造住宅建築物及びプレハブ住宅建築物に取付けられるサッシ等であり、枠を構造躯体に溶接等で固定し、かつ、当該枠と構造躯体の間にモルタル等を充填する取付方法以外のもの、耐風圧性等級がS-3以下であるものをいう。

「試験体」とは、実際に試験を行ったサッシ等をいう。ただし、熱貫流率に関しては、7 - 1 に定める計算方法に従って熱貫流率を算出したサッシ等を含む。

「評価品」とは、住宅性能評価を受ける住宅に実際に装備するサッシ等をいう。

「戸」とは、サッシ等を構成する部分のうち枠以外の部分をいう。ただし、可動しない部分（はめ殺し部）は含まない。

「框ドア」とは、戸の表面積の過半をガラスが占めているドアをいう。

「単板ガラス」とは、次に掲げるガラスをいう。また、合わせガラスの場合における「単板ガラスの厚さ」とは合わせガラスに用いられる板ガラスの厚さの合計をいう。

- ・ JIS R 3202 に規定するフロート板ガラス及び磨き板ガラス
- ・ JIS R 3203 に規定する型板ガラス
- ・ JIS R 3204 に規定する網入板ガラス及び線入板ガラス
- ・ JIS R 3208 に規定する熱線吸収板ガラス
- ・ JIS R 3205 に規定する合わせガラス

「複層ガラス」とは、JIS A 3209 に規定する複層ガラスをいう。

「締まり機構」とは、クレセント、グレモン錠、ラッチ、カムラッチその他の「戸と枠又は戸と戸の接触部分を引き寄せて気密な状態を維持する機構」をいう。

#### 1 - 2 サッシ枠と構造躯体の納まり

評価対象はサッシ枠の内側のみである。従って、試験体と評価品においてサッシ枠の外側である建築物への納まりが異なっても、等級評価には影響しない。

#### 1 - 3 組み合わせ形式の扱い

評価品が方立や無目を介して連窓や段窓となっている場合は、それぞれの部分に対応する試験体をもとにそれぞれの部分ごとに評価し、最も劣る部分の性能をもって評価品の性能とする。ただし、この場合において試験体が評価品と同じ構造の方立や無目を介した連窓や段窓である場合は、全体を一体として評価することができる。

評価品がシーリング材等によりガラス突き合わせとなっている場合は、試験体も評価品と同じ構造のガラス突き合わせとし、全体を一体として評価する。

### 1 - 4 建て方の扱い

本基準において住宅の建て方（一戸建ての住宅か、共同住宅等か）は問わない。

### 2 適用する基準

下表のイ欄の「評価する性能」に応じ、ロ欄の「基準」に適合する評価品については、ハ欄に掲げる「評価方法基準の箇所」の運用において「試験体と同等の性能を有する」と認めるものとする。

(イ) 評価する性能	遮音性能	熱貫流率	気密性能
(ロ) 基準	3 材質 4 試験機関 5 品質管理	同左	同左
	6 遮音性能に関する基準	7 熱貫流率に関する基準	8 気密性能に関する基準
(ハ) 「評価品が試験体と同等以上の性能を有する」と認められる評価方法基準の箇所	評価方法基準 8 - 4 (3)イ 又はロ という「これらと同等のもの」	評価方法基準 5 - 1 (3)イの熱損失係数を求める場合の熱貫流率の設定 ----- 評価方法基準 5 - 1 (3)ロ c、c 又は c に基づく設計施工指針 4 (2)イでいう「これと同等以上の性能を有するもの」	評価方法基準 5 - 1 (3)ロ c 又は c に基づく設計施工指針 4 (3)でいう「気密性等級」の区分

### 3 材質

遮音性能と熱貫流率に関しては、次の材質の区分について、評価品の戸と試験体の戸が同じ区分に属すること。また、評価品の枠と試験体の枠についても同じ区分に属すること。

アルミ製	樹脂製
アルミ熱遮断（熱絶縁）構造製	木製
アルミ樹脂複合構造製	金属製フラッシュ構造
アルミ・木複合構造製	その他の構造製（～以外の構造製）

気密性能に関しては、評価品の戸と試験体の戸が同じ区分に属すること。（注：気密性能に関しては、評価品の枠と試験体の枠が異なる区分に属することを許容する。）

### 4 試験機関

試験（7 - 1 に定める計算を含む）は、次の 又は の機関において実施したものであること。ただし、7 - 1 に定める計算による場合で において実施するときは、 の機関により計算内容の審査を受けること。

住宅の品質確保の促進等に関する法律第 5 3 条第 2 項の指定を受けた指定試験機関その他これに類する機関

試験体制について の機関による審査を受けたサッシ製造会社（JIS 表示許可工場等）の試験所。ただし、この場合は、自社で製造する製品に関するものに限る。

### 5 品質管理

評価品は、次のいずれかに該当する工場で生産されたものであること。

JIS 表示許可工場

ISO 9000 認証取得工場

国内又は国外の第三者機関によって審査が行われ、上記 又は と同等以上の品質管理体制が整備されていると認められている工場

## 6 遮音性能に関する基準

### 6 - 1 試験方法

試験方法は、サッシについては JIS A 4706、ドアについては JIS A 4702 によること。なお、雨戸やシャッター等の付属物を閉めた状態での試験は認められない。

### 6 - 2 枠及び戸（又ははめ殺し部）の構造

(1) 評価品の枠及び戸（又ははめ殺し部）の構造は、試験体と同じであること。ただし、次の場合に限り、評価品と試験体の当該部位の構造が異なっても同等の性能を有するものとする。試験体に中棧がなく、評価品に中棧がある場合（その他の部分は同じ構造であるものとする。～ において同じ）

試験体に換気小窓があり、評価品に換気小窓がない場合

試験体に雨戸支持枠、シャッター支持枠、面格子等がなく、評価品にそれらが付加されている場合

試験体と評価品の枠のうち躯体への納まりに関わる形状のみが異なる場合。

その他評価品の遮音性能が試験体のそれ以上であることが確認できる場合

(2) 評価品のガラスは試験体と同じであること。ただし、以下の場合に限り、評価品と試験体のガラスが異なっても同等の性能を有するものとする。なお、以下の～ は、評価品及び試験体の性能が JIS A 4706 及び JIS A 4702 に規定される T-2 等級以下のサッシ等のみに適用され、及び は、評価品及び試験体の性能が T-3 等級以上のサッシ等にも適用される。

下図イの場合、評価品の単板ガラスの厚さが試験体のそれ以上であること。

下図ロの場合、次の全てに該当すること。

a 評価品の中空層の厚さが試験体のそれ以上であること。

b 評価品の複層ガラスを構成する単板ガラスの厚さの合計が試験体のそれ以上であること。

c 評価品の複層ガラスを構成する単板ガラスの厚さの差が試験体のそれ以上であること。

下図ハの場合、次の全てに該当すること。

a 評価品の中空層の厚さが試験体のそれ以上であること。

b 評価品の単板ガラスの厚さの合計が試験体のそれ以上であること。

c 評価品の単板ガラスの厚さの差が試験体のそれ以上であること。

評価品に特殊単板ガラス（防音合わせガラス又は明らかにこれと同等以上の遮音性能を有する単板ガラスをいう。以下同じ）を使用している場合、次のいずれかであること。

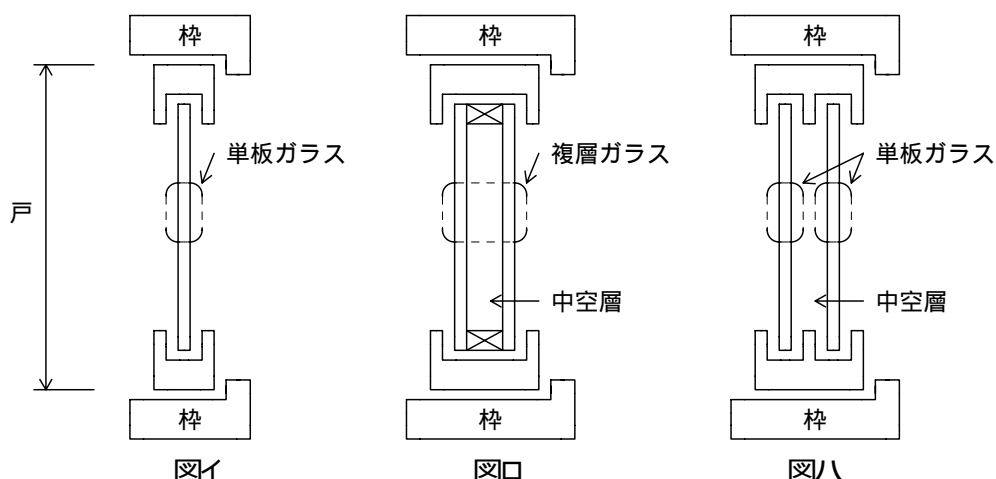
a 試験体においても評価品と同じ種類の特殊単板ガラスを使用し、かつ、評価品の特殊単板ガラスの厚さが試験体のそれ以上であること。

b 試験体において通常の単板ガラスを使用し、かつ、評価品の特殊単板ガラスの厚さが試験体のそれ以上であること。

評価品に特殊複層ガラス（防音複層ガラス、片方又は両方に防音合わせガラスを用いた複層ガラス、真空ガラス又はこれらと同等以上の遮音性能を有する複層ガラスをいう。以下同じ）を使用している場合、次のいずれかであること。

a 試験体においても評価品と同じ種類の特殊複層ガラスを使用し、かつ、評価品の特殊複層ガラスの中空層の厚さ及び構成するガラスの仕様が の基準に適合していること。

b 試験体において通常の複層ガラスを使用し、かつ、評価品の特殊複層ガラスの中空層の厚さ及び構成するガラスの仕様が の基準に適合していること。



- (3) ガラスを使用する場合、枠又は戸へのガラス納めが、試験体と評価品で同じであること。ただし、単板ガラスについては、試験体のガラス納めが不定形シーリング材で、評価品のガラス納めが定型ガスケットである場合は、試験体と評価品のガラス納めが異なっても同等の性能を有するものとする。
- (4) 試験体にガラスを使用し、評価品に腰パネル等を使用している場合は、腰パネルの単位面積当たりの重量が試験体のガラスのそれよりも重く、かつ評価品の腰パネル等の納めが試験体のガラスの納めと同じであること。

### 6 - 3 戸と枠の取り合い部の構造

評価品の戸と枠の取り合い部の構造は、試験体と同じであること。ただし、評価品の気密性能が試験体と比べて同等以上であることが明らかな場合はこの限りでない。

### 6 - 4 締まり機構

評価品の締まり機構は、試験体と同じであること。また、その作用点の数は試験体のそれ以上であること。

### 6 - 5 開閉形式及び寸法

評価品の開閉形式及び寸法は、「非木造住宅サッシ等」においては別表1、「木造住宅サッシ等」においては別表2のイ欄の「試験体」の種類に応じて口欄に掲げる「適用範囲」のいずれかに該当すること。口欄に掲げる「適用範囲」の区分ごとの「開閉形式及び寸法」は、それぞれ「凡例」欄に示す。

なお、「凡例」欄に記載している寸法を超える試験体で試験を行った場合にあっては、試験体の寸法を評価品の寸法の上限とすることができる。

## 7 熱貫流率に関する基準

### 7 - 1 試験方法等

試験方法又は計算方法は、次のいずれかによること。また、熱貫流率の単位は $W / (m^2 \cdot K)$ とし、小数点以下第2位(第3位以下切り上げ)まで求めること。なお、雨戸やシャッター等の付属物を閉めた状態での試験及び計算は認められない。

JIS A 4710 (建具の断熱性試験方法)

ISO 12567-1 (Thermal performance of windows and doors -- Determination of thermal transmittance by hot box method -- Part 1: Complete windows and doors)に規定される断熱性能試験方法

ISO 10077-1 (Thermal performance of windows, doors and shutters -- Calculation of thermal transmittance -- Part 1: Simplified method)に規定される断熱性能計算方法  
その他別に定める試験方法又は計算方法

## 7 - 2 枠及び戸（又ははめ殺し部）の構造

(1) 評価品の枠及び戸（又ははめ殺し部）の構造は、試験体と同じであること。ただし、次のいずれかに該当し、試験体に比べて同等以上の断熱性能を有することが明らかな場合は、この限りでない。

試験体に雨戸支持枠、シャッター支持枠、面格子等がなく、評価品にそれらが付加されている場合（その他の部分は同じ構造であるものとする。 において同じ）

試験体と評価品の枠の躯体への納まり部の形状が異なる場合で、そのことによる断熱上の影響がないと認められる場合

その他評価品の断熱性能が試験体のそれ以上であることが確認できる場合

(2) ガラスを使用する場合にあっては、次によること。

評価品に複層ガラスを使用している場合、次の a ~ d の全てに該当すること。又は評価品のガラス中央部の熱貫流率を JIS R 3107-1998（板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法）若しくは JIS A1420-1999（建築用構成材の断熱性測定方法）に規定する方法により計算して試験体の熱貫流率以下であることが確認されていること。

a 次の「ガラスの種類」に関し、評価品と試験体と同じであること。

- ・通常のガラスのみを使用している複層ガラス
- ・低放射ガラスを使用している複層ガラス
- ・その他の複層ガラス（特殊低放射膜等を使用しているもの）

b 次の「中空層に充填されているガスの種類」に関し、評価品と試験体と同じであること。

- ・空気を充填しているもの
- ・ガス（アルゴン、クリプトン等）を充填しているもの
- ・その他（中空層が真空のものなど）

c 次の「中空層の層数」に関し、評価品と試験体と同じであること。

- ・1層（板ガラス2枚）
- ・2層（板ガラス3枚又は板ガラス2枚と中間膜）

d 評価品の中空層の厚さが試験体のそれ以上であること。

評価品に二重ガラス構造の建具（複数枚の単板ガラス等を用いた一重建具）を使用している場合は、評価品の中空層の層数が試験体のそれ以上であり、かつ中空層の厚さが試験体のそれ以上であること。

(3) 試験体にガラスを使用し、評価品に腰パネル等を使用している場合は、腰パネル中央部の熱貫流率を一次元熱貫流率計算法により計算し、またガラス中央部の熱貫流率を JIS R3107-1998（板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法）又は JIS A1420-1999（建築用構成材の断熱性測定方法）に規定する方法により計算して、評価品の熱貫流率が試験体の熱貫流率以下であることが確認されていること。

## 7 - 3 戸と枠の取り合い部の構造

評価品の戸と枠の取り合い部の構造は、試験体と同じであること。ただし、その断熱性能が試験体と比べて同等以上であることが明らかな場合はこの限りでない。

## 7 - 4 締まり機構

評価品の締まり機構は、試験体と同じであること。また、その作用点の数は試験体のそれ以上であること。

### 7 - 5 開閉形式及び寸法

評価品の開閉形式及び寸法は、別表3のイ欄の「試験体」の種類に応じて口欄に掲げる「適用範囲」のいずれかに該当すること。口欄に掲げる「適用範囲」の区分ごとの「開閉形式及び寸法」は、それぞれ「凡例」欄に示す。

## 8 気密性能に関する基準

### 8 - 1 試験方法等

試験方法は、JIS A 1516（建具の気密性試験方法）によること。また、性能の表示方法は、サッシについてはJIS A4706、ドアについてはJIS A4702によること。

### 8 - 2 枠及び戸（又ははめ殺し部）の構造

評価品の枠及び戸（又ははめ殺し部）の構造は、試験体と同じであること。ただし、次のいずれかに該当し、試験体に比べて同等以上の気密性能を有することが明らかな場合は、この限りでない。

試験体に雨戸支持枠、シャッター支持枠、面格子等がなく、評価品にそれらが付加されている場合（その他の部分は同じ構造であるものとする。において同じ）

試験体と評価品の枠の躯体への納まり部の形状が異なる場合で、そのことによる気密上の影響がないと認められる場合

その他評価品の気密性能が試験体のそれ以上であることが確認できる場合

### 8 - 3 戸と枠の取り合い部の構造

評価品の戸と枠の取り合い部の構造は、試験体と同じであること。ただし、その気密性能が試験体と比べて同等以上であることが明らかな場合はこの限りでない。

### 8 - 4 締まり機構

評価品の締まり機構は、試験体と同じであること。また、その作用点の数は試験体のそれ以上であること。

### 8 - 5 開閉形式及び寸法

評価品の開閉形式及び寸法は、別表3のイ欄の「試験体」の種類に応じて口欄に掲げる「適用範囲」のいずれかに該当すること。口欄に掲げる「適用範囲」の区分ごとの「開閉形式及び寸法」は、それぞれ「凡例」欄に示す。

（附則）

本基準の適用は、試験成績書に記載された試験実施日（下表において「試験実施日」という。）に応じ、下表による。

		試験実施日	
		平成 15 年 11 月 30 日以前	平成 15 年 12 月 1 日以降
熱貫流率 気密性能	木造住宅サッシ等	新基準を適用	
	非木造住宅サッシ等		
遮音性能	木造住宅サッシ等	旧基準を適用	
	非木造住宅サッシ等	新基準を適用、ただし 6-2(3)は適用外とする。	
（注） 「新基準」とは平成 15 年 12 月 1 日改正後の基準をいう。 「旧基準」とは平成 15 年 12 月 1 日改正前の基準をいう。			

別添

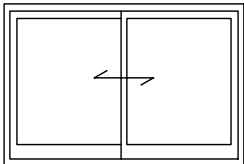
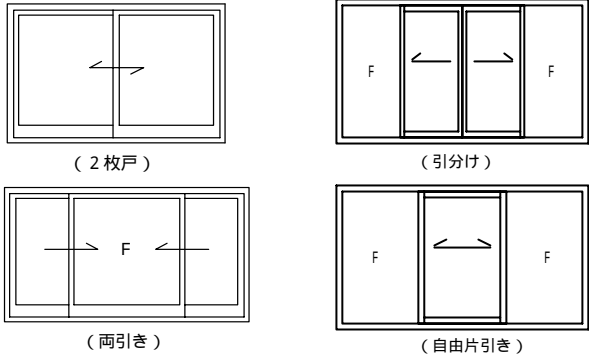
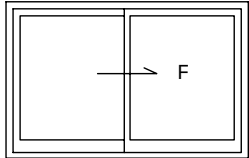
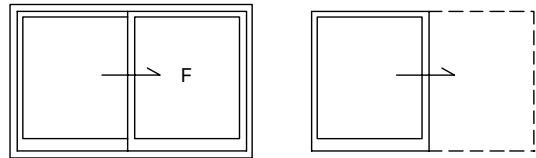
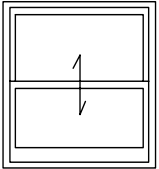
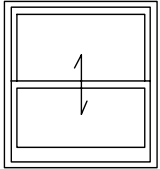
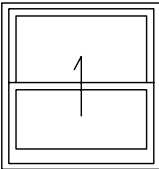
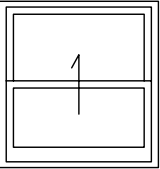
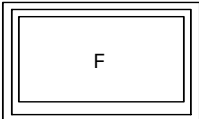

7 - 1 に基づき別に定める試験方法及び計算方法

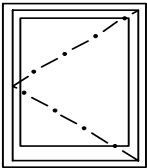
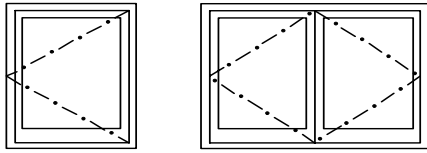
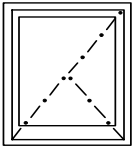
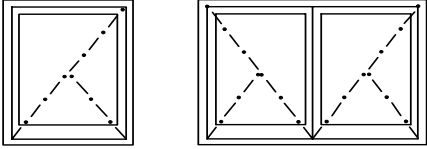
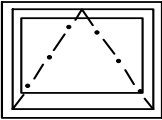
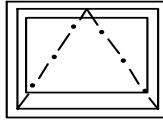
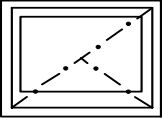
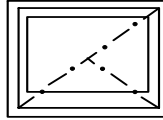
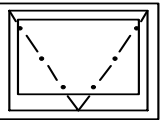
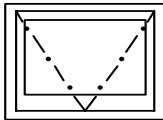
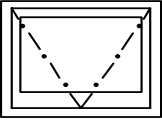
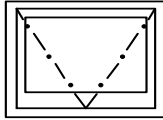
財団法人ベターリビングの「優良住宅部品認定基準(木造用住宅サッシ、RC造用住宅サッシ、サッシ(出窓)及びサッシ(天窗))」に規定する試験方法(WDW-01、WDC-01、WDO-01及びWDR-02)

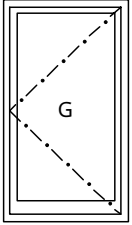
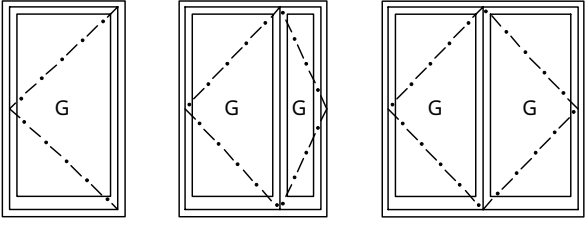
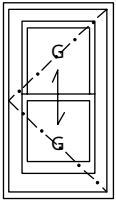
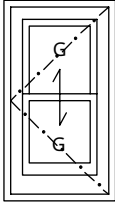
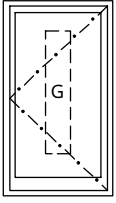
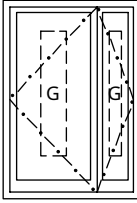
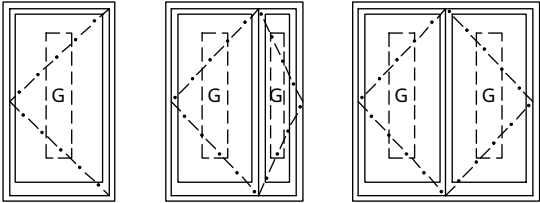


財団法人ベターリビングの「優良住宅部品認定基準(木造用住宅サッシ、RC造用住宅サッシ、サッシ(出窓)及びサッシ(天窗))」に規定する計算方法

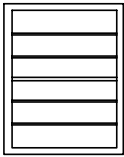
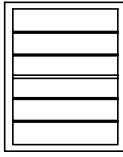
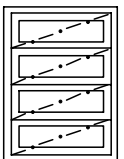
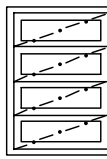
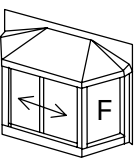
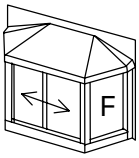
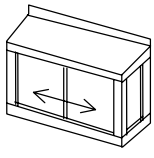
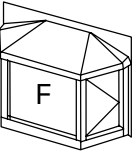
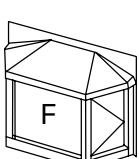
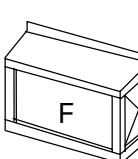
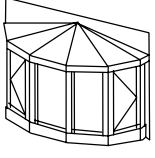
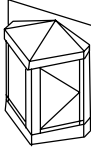
別表1 遮音性能に関する「評価品の開閉形式及び寸法の範囲(非木造住宅サッシ等)」

注 ・寸法はミリメートル。表中の幅及び高さは、枠の内法寸法による。  
 ・図中のFは「はめ殺し」であることを示し、図中のGは「ガラス」であることを示す。

イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例(評価品の開閉形式及び寸法)	
引違いの窓(戸は2枚)  幅 1700以上 高さ1700以上	A1、A2	A1: 引き形式の窓(引き違い・両引き等)  (2枚戸) (引分け) (両引き) (自由片引き) 図のF部分のはめ殺し部であることを示す(以下同じ) 戸一枚の幅は1200、高さは2400以内に限定	
片引きの窓(戸は1枚)  幅 1700以上 高さ1700以上	A2	A2: 引き形式の窓(片引き)  (片引き) (一本引き) 図のF部分のはめ殺し部であることを示す(以下同じ) 戸一枚の幅は1200、高さは2400以内に限定	
両上げ下げの窓  幅 600以上 高さ1200以上	C1、C2	C1: 上げ下げの窓(両上げ下げ)  戸1枚の幅は1200、高さは1200以内に限定	
片上げ下げの窓  幅 600以上 高さ1200以上	C2	C2: 上げ下げの窓(片上げ下げ)  戸1枚の幅及びはめ殺し部の幅は1200、高さは1200以内に限定	
はめ殺し窓  幅 600以上 高さ1200以上	D	D: はめ殺し窓  窓の幅は1200、高さは2400以内に限定	

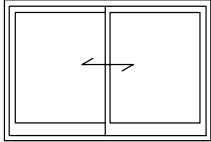
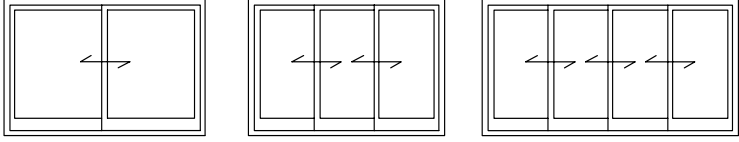
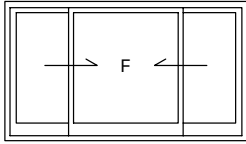
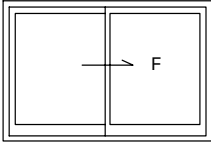
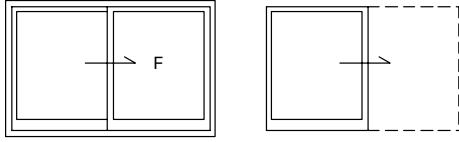
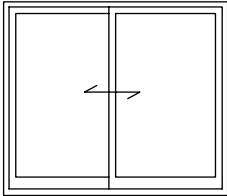
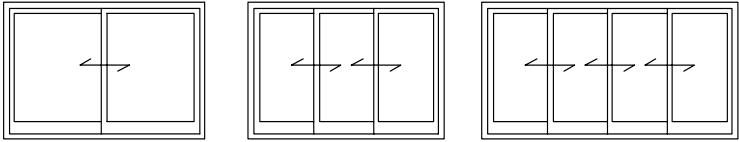
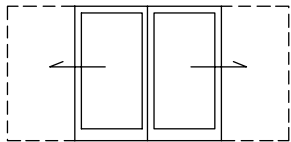
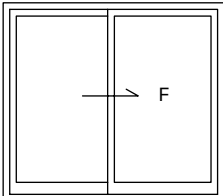
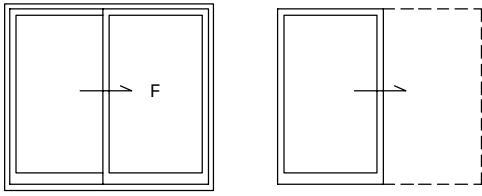
イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）	
<p>片開き窓（戸は1枚）</p>  <p>幅 600以上 高さ1200以上</p>	E	<p>E：開き式窓（片開き・両開き）</p>  <p>（片開き窓）                      （両開き窓）</p> <p>戸1枚の幅は1200、高さは2400以内に限る</p>	
<p>縦すべりだし窓</p>  <p>幅 600以上 高さ1200以上</p> <p>（たてすべり出し窓）</p>	F	<p>F：縦すべりだし式窓</p>  <p>（たてすべり出し窓）                      （両たてすべり出し窓）</p> <p>戸1枚の幅は1200、高さは2400以内に限る</p>	
<p>突き出し窓</p>  <p>幅 600以上 高さ 600以上</p> <p>（突き出し窓）</p>	G	<p>G：突き出し窓</p>  <p>（突き出し窓）</p> <p>戸1枚の幅は1200、高さは1200以内に限る</p>	
<p>すべりだし窓</p>  <p>幅 600以上 高さ 600以上</p> <p>（すべり出し窓）</p>	H	<p>H：すべりだし窓</p>  <p>（すべり出し窓）</p> <p>戸1枚の幅は1200、高さは1200以内に限る</p>	
<p>外倒し窓</p>  <p>幅 600以上 高さ 600以上</p> <p>（外倒し窓）</p>	I	<p>I：外倒し窓</p>  <p>（外倒し窓）</p> <p>戸1枚の幅は1200、高さは1200以内に限る</p>	
<p>内倒し窓</p>  <p>幅 600以上 高さ 600以上</p> <p>（内倒し窓）</p>	J	<p>J：内倒し窓</p>  <p>（内倒し窓）</p> <p>戸1枚の幅は1200、高さは1200以内に限る</p>	

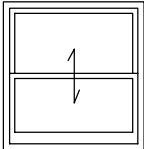
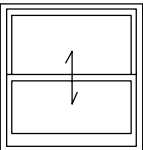
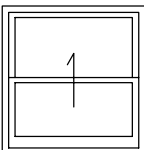
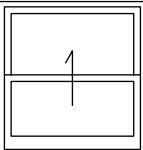

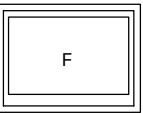
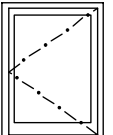
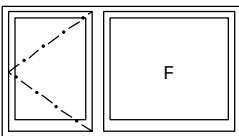
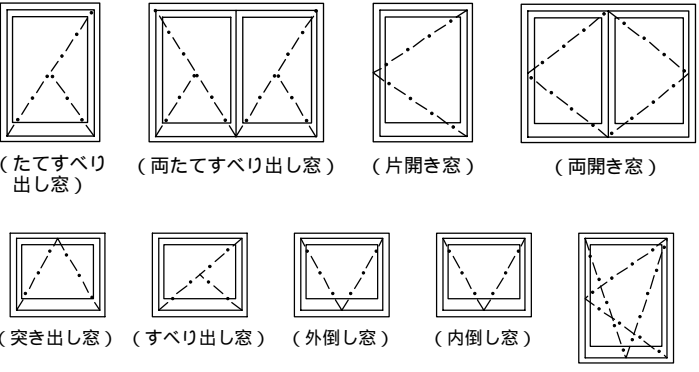
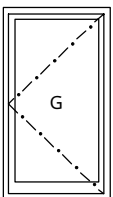
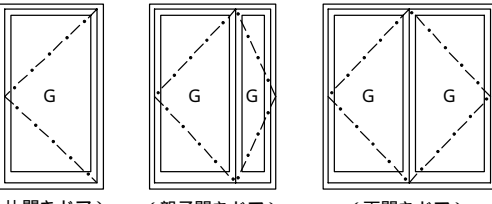
イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）	
<p>片開き框ドア（戸は1枚）</p>  <p>幅 700以上 高さ1700以上</p>	K	<p>K：框ドア（G区分のものを除く）</p>  <p>（片開きドア） （親子開きドア） （両開きドア）</p> <p>戸1枚の幅は1200、高さは2400以内に限る</p>	
<p>上げ下げ窓を内蔵した 框ドア</p>  <p>幅 700以上 高さ1700以上</p>	L	<p>L：上げ下げ窓を内蔵した框ドア</p>  <p>戸1枚の幅は1200、高さは2400以内に限る</p>	
<p>框ドア以外のドアで 片開き（戸は1枚）</p>  <p>幅 700以上 高さ1700以上</p> <p>又は</p> <p>框ドア以外のドアで 親子開き（戸は2枚）</p>  <p>幅 1100以上 高さ1700以上</p>	M	<p>M：框ドア以外のドア （フラッシュドア等）</p>  <p>（片開きドア） （親子開きドア） （両開きドア）</p> <p>戸1枚の幅は1200、高さは2400以内に限る 戸の面積に対するガラス面積の比率は、試験体のものを上限とする</p>	
<p>ガラスルーバー窓 （シングルガラスタイプ）</p>  <p>幅 600以上 高さ1200以上</p>	N1、N2	<p>N1：ガラスルーバー窓 （シングルガラスタイプ）</p>  <p>窓の大きさは幅1200、高さ2400以内に限る</p>	

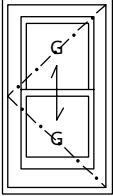
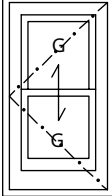
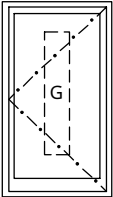
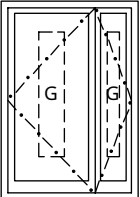
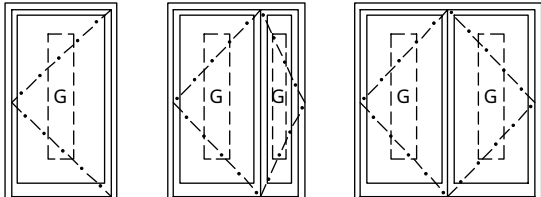
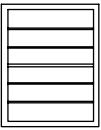



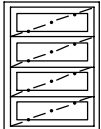
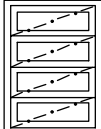
イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）	
ガラスルーバー窓 （ダブルガラスタイプ）   幅 600以上 高さ1200以上	N2	N2：ガラスルーバー窓 （ダブルガラスタイプ）    窓の幅は 1200、高さは 2400 以内に限る	
オーニング窓   幅 600以上 高さ1200以上	O	O：オーニング窓    窓の幅は 1200、高さは 2400 以内に限る	
ユニット出窓 （台形又は四角形・ 正面引違い・ 側面はめ殺し）   幅 1600以上 高さ1200以上  平面形状が台形のものと同角形のもの の双方が存在する場合は、台 形を代表試験体とする	P1、P2	P1：ユニット出窓（正面引違い・側面はめ殺し）   （台形・正面引違い・ 側面はめ殺し）  （四角形・正面引違い・ 側面はめ殺し）  戸 1 枚の幅及びはめ殺し部分の枠の短辺の内法は、それぞれ 1400 以内に限る 窓面の外壁からの出寸法は 500 以内に限る	
ユニット出窓 （台形又は四角形・ 正面はめ殺し・ 側面開き）   幅 1600以上 高さ1200以上  平面形状が台形のものと同角形のもの の双方が存在する場合は、台形 を代表試験体とする	P2	P2：ユニット出窓（正面はめ殺し・側面開き）   （台形・正面はめ殺し・側面開き）  （四角形・正面はめ殺し・側面開き）   （弓形・開き）  （三角形・開き）  戸 1 枚の幅及びはめ殺し部分の枠の短辺の内法は、それぞれ 1400 以内に限る 窓面の外壁からの出寸法は 500 以内に限る	
21 その他（～ 以外の 形式）	Q	Q：その他  評価品の開閉形式等は、試験体と同じものとする 評価品の寸法は、試験体の寸法を上限とする	

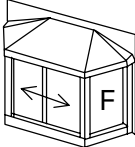
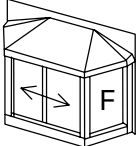
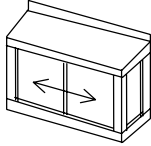
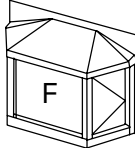
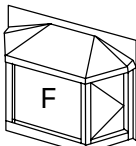
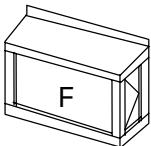
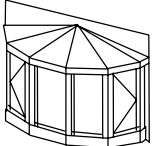
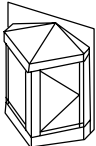
別表2 遮音性能に関する「評価品の開閉形式及び寸法の範囲（木造住宅サッシ等）」

注 ・寸法はミリメートル。表中の幅及び高さは、枠の内法寸法による。  
 ・図中のFは「はめ殺し」であることを示し、図中のGは「ガラス」であることを示す。

イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）	
<p>引違いの窓（戸は2枚）</p>  <p>幅 1600以上 高さ1200以上</p>	<p>A1、A2、 D、E</p>	<p>A1：引き形式の窓（引違い・両引き）</p>  <p>(2枚戸) (3枚戸) (4枚戸)</p>  <p>(両引き)</p> <p>図のF部分のはめ殺し部であることを示す（以下同じ） 戸1枚の幅及びはめ殺し部の幅は1400以内に限る</p>	
<p>片引きの窓（戸は1枚）</p>  <p>幅 1600以上 高さ1200以上</p>	<p>A2、D、 E</p>	<p>A2：引き形式の窓（片引き）</p>  <p>(片引き) (一本引き)</p> <p>戸1枚の幅及びはめ殺し部の幅は1400以内に限る</p>	
<p>土間納まりの引戸 引違い（戸は2枚）</p>  <p>幅 1600以上 高さ1700以上</p>	<p>B1、B2</p>	<p>B1：土間納まりの引戸（引違い・引分け）</p>  <p>(2枚戸) (3枚戸) (4枚戸)</p>  <p>(引分け)</p> <p>戸1枚の幅は1400以内に限る</p>	
<p>土間納まりの引戸 片引き（戸は1枚）</p>  <p>幅 1600以上 高さ1700以上</p>	<p>B2</p>	<p>B2：土間納まりの引戸（片引き・一本引き）</p>  <p>(引分け) (一本引き)</p> <p>戸1枚の幅及びはめ殺し部の幅は1400以内に限る</p>	

イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）	
両上げ下げの窓  幅 600以上 高さ1200以上	C1、C2	C1：上げ下げの窓（両上げ下げ）  戸1枚の幅は1400以内に限る	
片上げ下げの窓  幅 600以上 高さ1200以上	C2	C2：上げ下げの窓（片上げ下げ）  戸1枚の幅及びはめ殺し部の幅は1400以内に限る	
はめ殺し窓  幅 1100以上 高さ1200以上	D	D：はめ殺し窓  短辺の寸法は1400以内に限る	
たてすべり出し窓又は片開き窓（戸は1枚）  幅 600以上 高さ1200以上  又は、 たてすべり出し窓又は両開き窓（戸は1枚）とはめ殺し窓との連窓  幅 1600以上 高さ1200以上	D、E、F	E：開き系窓  戸1枚の幅は1400以内に限る	
片開き框ドア（戸は1枚）  幅 700以上 高さ1700以上	F	F：框ドア（G区分のものを除く）  戸1枚の幅は1400以内に限る	

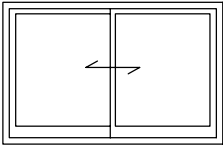
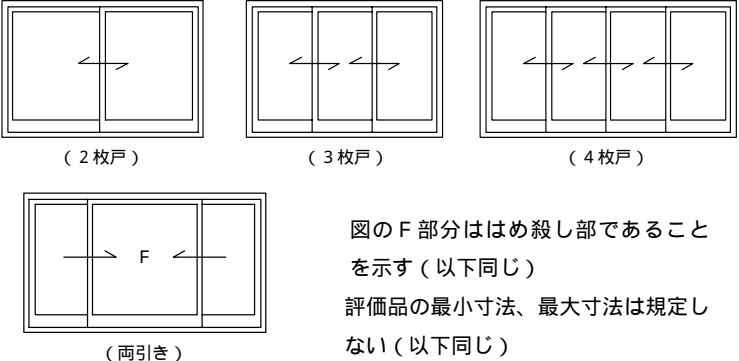
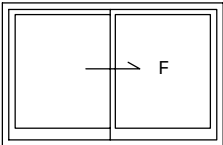
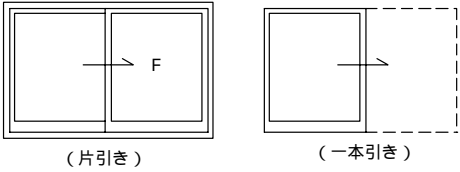
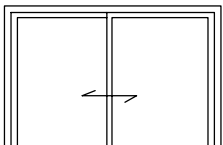
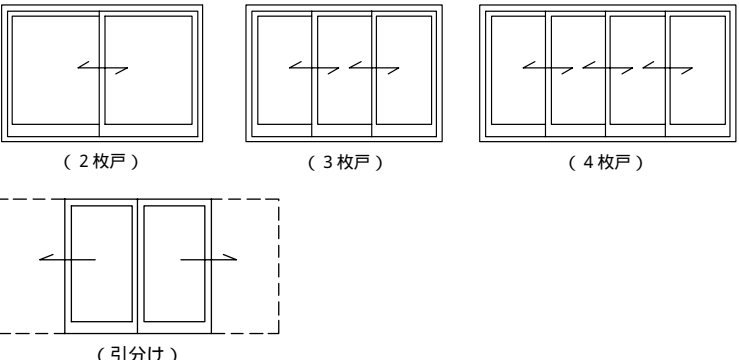
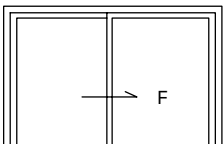
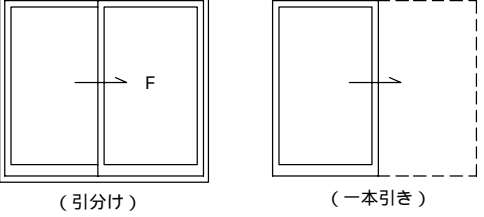
イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）	
<p>上げ下げ窓を内蔵した 框ドア</p>  <p>幅 700以上 高さ1700以上</p>	G	<p>G：上げ下げ窓を内蔵した框ドア</p>  <p>戸 1 枚の幅は 1400 以内に限る</p>	
<p>框ドア以外のドアで 片開き（戸は 1 枚）</p>  <p>幅 700以上 高さ1700以上</p> <p>又は</p> <p>框ドア以外のドアで 親子開き（戸は 2 枚）</p>  <p>幅 1100以上 高さ1700以上</p>	H	<p>H：框ドア以外のドア （フラッシュドア等）</p>  <p>(片開きドア) (親子開きドア) (両開きドア)</p> <p>戸 1 枚の幅は 1400 以内に限る 戸の面積に対するガラス面積の 比率は、試験体のものを上限と する</p>	
<p>ガラスルーバー窓 （シングルガラスタイプ）</p>  <p>幅 600以上 高さ1200以上</p>	I 1、I 2	<p>I 1：ガラスルーバー窓 （シングルガラスタイプ）</p>  <p>戸 1 枚の幅は 1400 以内に限る</p>	
<p>ガラスルーバー窓 （ダブルガラスタイプ）</p>  <p>幅 600以上 高さ1200以上</p>	I 2	<p>I 2：ガラスルーバー窓 （ダブルガラスタイプ）</p>  <p>戸 1 枚の幅は 1400 以内に限る</p>	
<p>オーニング窓</p>  <p>幅 600以上 高さ1200以上</p>	J	<p>J：オーニング窓</p>  <p>戸 1 枚の幅は 1400 以内に限る</p>	

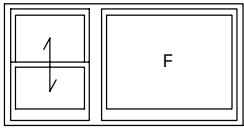
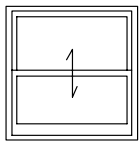
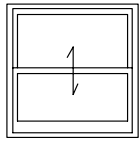
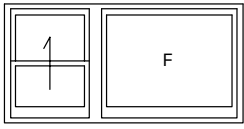
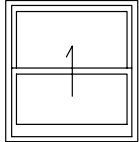
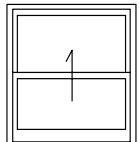

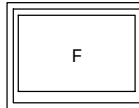
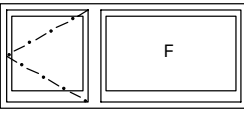
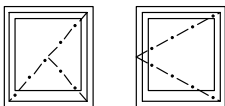
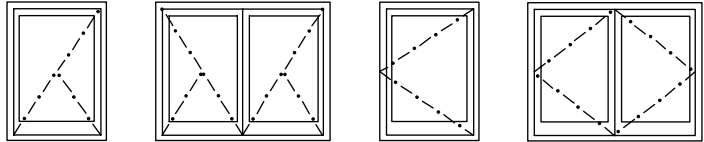
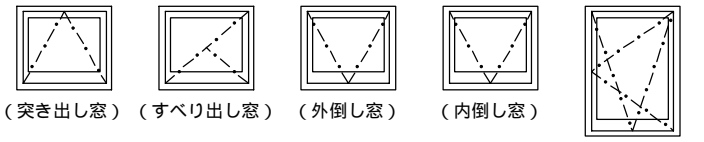
イ欄 試験体	ロ欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）	
ユニット出窓 （台形又は四角形・ 正面引違い・ 側面はめ殺し）  幅 1600以上 高さ1200以上  平面形状が台形のものと同角形のもの の両方が存在する場合は、台形を 代表試験体とする	K1、K2	K1：ユニット出窓（正面引違い・側面はめ殺し）  （台形・正面引違い・側面はめ殺し）  （四角形・正面引違い・側面はめ殺し）  戸1枚の幅及びはめ殺し部分の枠の短辺の内法は、それぞれ1400以内に 限る 窓面の外壁からの出寸法は500以内に 限る	
ユニット出窓 （台形又は四角形・ 正面はめ殺し・ 側面開き）  幅 1600以上 高さ1200以上  平面形状が台形のものと同角形のもの の両方が存在する場合は、台形を 代表試験体とする	K2	K2：ユニット出窓（正面はめ殺し・側面開き）  （台形・正面はめ殺し・側面開き）  （四角形・正面はめ殺し・側面開き）   （弓形・開き）  （三角形・開き）  戸1枚の幅及びはめ殺し部分の枠の短辺の内法は、それぞれ1400以内に 限る 窓面の外壁からの出寸法は500以内に 限る	
その他	L	L：その他  1 評価品の開閉形式等は、試験体と同じものに限る 2 評価品の寸法は、試験体の寸法を上限とする	

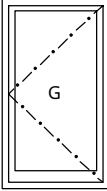
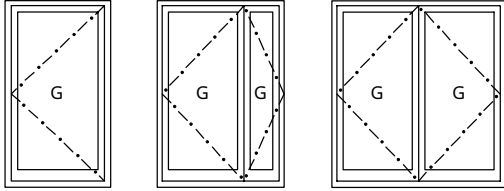
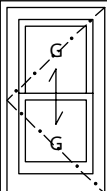
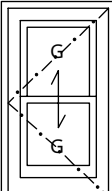
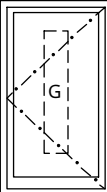
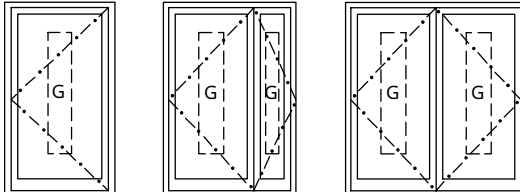
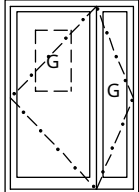
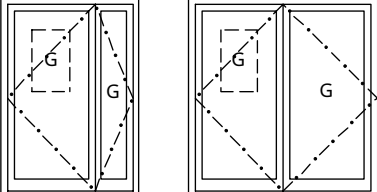
別表3 熱貫流率及び気密性能に関する「評価品の開閉形式及び寸法の範囲」

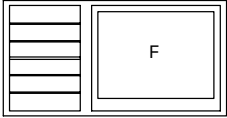


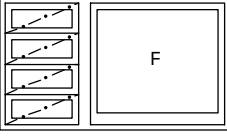
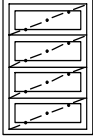
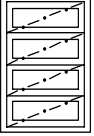
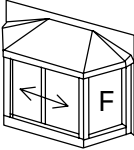
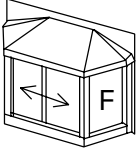
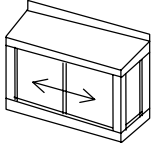
注 ・寸法はミリメートル。表中の幅及び高さは、枠の内法寸法による。  
 ・図中のFは「はめ殺し」であることを示し、図中のGは「ガラス」であることを示す。  
 ・開閉形式K1及びK2の試験体の屋根及び底（台輪）は使用地域の外壁と同等以上の断熱構造とすること。

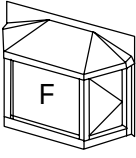



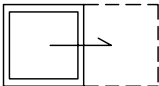
断熱材充填により、外壁の熱貫流率以下もしくは外壁断熱材の熱抵抗以上とすること。

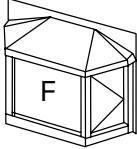
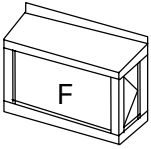
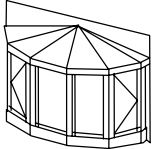
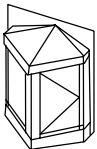



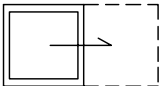
イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）	
<p>引違いの窓（戸は2枚）</p>  <p>試験体開口面積：2.0～2.6㎡</p>	A1、A2	<p>A1：引き形式の窓（引違い・両引き）</p>  <p>図のF部分のはめ殺し部であることを示す（以下同じ）                  評価品の最小寸法、最大寸法は規定しない（以下同じ）</p>	
<p>片引きの窓（戸は1枚）</p>  <p>試験体開口面積：2.0～2.6㎡</p>	A2	<p>A2：引き形式の窓（片引き）</p> 	
<p>土間納まりの引戸 引違い（戸は2枚）</p>  <p>試験体開口面積：3.2～3.8㎡</p>	B1、B2	<p>B1：土間納まりの引戸（引違い・引分け）</p> 	
<p>土間納まりの引戸 片引き（戸は1枚）</p>  <p>試験体開口面積：3.2～3.8㎡</p>	B2	<p>B2：土間納まりの引戸（片引き・一本引き）</p> 	

イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）
<p>両上げ下げの窓とはめ殺し窓との連窓</p>  <p>試験体開口面積：2.0～2.6㎡ 又は、 両上げ下げの窓</p>  <p>試験体開口面積：0.8～1.2㎡</p>	C1、C2	<p>C1：両上げ下げの窓</p> 
<p>片上げ下げの窓とはめ殺し窓との連窓</p>  <p>試験体開口面積：2.0～2.6㎡ 又は、 片上げ下げの窓</p>  <p>試験体開口面積：0.8～1.2㎡</p>	C2	<p>C2：片上げ下げの窓</p> 
<p>はめ殺し窓</p>  <p>試験体開口面積：1.5～2.0㎡</p>	D	<p>D：はめ殺し窓</p> 
<p>たてすべり出し(片開き窓)窓とはめ殺し窓との連窓</p>  <p>試験体開口面積：2.0～2.6㎡ 又は、 たてすべり出し(片開き窓)</p>  <p>試験体開口面積：0.8～1.2㎡</p>	D、E、F	<p>E：開き系窓</p>  <p>(たてすべり出し窓) (両たてすべり出し窓) (片開き窓) (両開き窓)</p>  <p>(突き出し窓) (すべり出し窓) (外倒し窓) (内倒し窓) (ドレーキップ窓)</p>

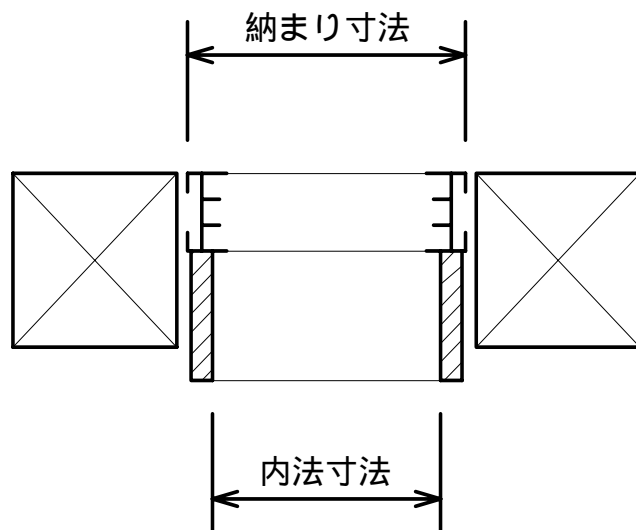
イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）	
<p>片開き框ドア（戸は1枚）</p>  <p>試験体開口面積：1.5～2.0㎡</p>	F	<p>F：框ドア（G区分のものを除く）</p>  <p>(片開きドア) (親子開きドア) (両開きドア)</p>	
<p>上げ下げ窓を内蔵した框ドア</p>  <p>試験体開口面積：1.5～2.0㎡</p>	G	<p>G：上げ下げ窓を内蔵した框ドア</p>  <p>(片開きドア)</p> <p>フラッシュ構造のものにおいては、ガラス辺縁部ののべ周長が試験体のガラス辺縁部ののべ周長を超えないこと</p>	
<p>框ドア以外のドアで片開き（戸は1枚）</p>  <p>試験体開口面積：1.5～2.0㎡</p> <p>フラッシュ構造の場合はガラス辺縁部ののべ周長が最大のものとする</p>	H1	<p>H1：框ドア以外のドア - 親扉と戸扉が同一構造のもの - (フラッシュドア等)</p>  <p>(片開きドア) (親子開きドア) (両開きドア)</p> <p>フラッシュ構造のものにおいては、ガラス辺縁部ののべ周長が試験体のガラス辺縁部ののべ周長を超えないこと</p>	
<p>框ドア以外のドアで親子開き（戸は2枚） - 親扉と戸扉構造違い -</p>  <p>試験体開口面積：2.4～3.0㎡</p> <p>フラッシュ構造の場合はガラス辺縁部ののべ周長が最大のものとする</p>	H2	<p>H2：框ドア以外のドア - 親扉と戸扉構造違い - (フラッシュドア等)</p>  <p>(親子開きドア) (両開きドア)</p> <p>フラッシュ構造のものにおいては、ガラス辺縁部ののべ周長が試験体のガラス辺縁部ののべ周長を超えないこと</p>	

イ欄 試験体	口欄 適用範囲	凡例（評価品の開閉形式及び寸法）	
<p>ガラスルーバー窓（ダブルガラスタイプ）とはめ殺し窓の連窓</p>  <p>試験体開口面積：2.0～2.6㎡</p> <p>又は</p> <p>ガラスルーバー窓（ダブルガラスタイプ）</p>  <p>試験体開口面積：0.8～1.2㎡</p>	I	<p>I：ガラスルーバー窓（ダブルガラスタイプに限る）</p> 	
<p>オーニング窓とはめ殺し窓との連窓</p>  <p>試験体開口面積：2.0～2.6㎡</p> <p>又は</p> <p>オーニング窓</p>  <p>試験体開口面積：0.8～1.2㎡</p>	J	<p>J：オーニング窓</p> 	
<p>ユニット出窓 （台形又は四角形・正面引違い・側面はめ殺し）</p>  <p>試験体開口面積：2.0～2.6㎡</p> <p>平面形状が台形のものと同角形のもの双方が存在する場合は、台形を代表試験体とする</p>	K1	<p>K1：ユニット出窓（正面引違い・側面はめ殺し）</p>  <p>（台形・正面引違い・側面はめ殺し）</p>  <p>（四角形・正面引違い・側面はめ殺し）</p> <p>窓面の外壁からの出寸法は500以内に限る</p>	

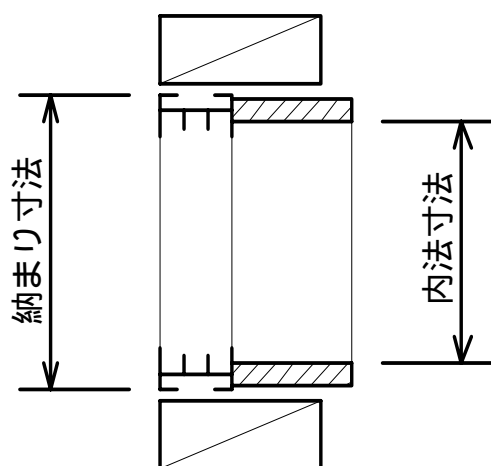
イ欄 試験体	口欄 適用範囲
ユニット出窓 (台形又は四角形・ 正面はめ殺し・ 側面開き)  試験体開口面積：2.0～2.6㎡  平面形状が台形のものと同角形のもの の両方が存在する場合は、台形を 代表試験体とする	K2
はめ殺しの天窓  試験体開口面積：0.8～1.2㎡	L
開き形式の天窓  試験体開口面積：0.8～1.2㎡ 又は 回転形式の天窓  試験体開口面積：0.8～1.2㎡	L、M
引き形式の天窓  試験体開口面積：0.8～1.2㎡	N
その他(～以外の 形式)  試験体面積は0.8㎡から2.6㎡の範 囲とする	O

凡例(評価品の開閉形式及び寸法)	
K2：ユニット出窓(正面はめ殺し・側面開き)   (台形・正面はめ殺し・側面開き) (四角形・正面はめ殺し・側面開き)   (弓形・開き) (三角形・開き)  窓面の外壁からの出寸法は500以内に限る	
L：はめ殺しの天窓 	
M：開き形式及び回転形式の天窓   (開き形式) (回転形式)	
N：引き形式の天窓 	
O：その他(～以外の形式)  評価品の開閉形式等は、試験体と同じものに限る	

## サッシ等における「内法寸法」と「納まり寸法」



水平断面図（例）



垂直断面図（例）

< 参考 1 : 「遮音性能」用の標準書式 >

試験体及び試験結果の概要

商品名			同等基準 の箇所
試験の区分		遮音性能	
試験結果			
用途の区分		「非木造住宅サッシ等」又は「木造住宅サッシ等」の いずれかを記入	1 - 1
材質	戸の材質	「アルミ製」～「その他の構造製」のうち、該当 するものを記入	3
	枠の材質	「アルミ製」～「その他の構造製」のうち、該当 するものを記入	
試験機関		研究所 (第三者試験機関以外の場合は、同等基準の要件を満 たすこと理由を附記すること)	4
試験方法		J I S	6 - 1
枠及び戸 (又ははめ殺し部) の構造	ガラスの部分	F L + A + F L	6 - 2
	その他の部分		
戸と枠の取り合い部の構造		図 のとおり	6 - 3
締まり機構		図 のとおり 箇所	6 - 4
開閉形式及び寸法	開閉形式	「引違いの窓(戸は2枚)」～「その他」のうち、 該当するものを記入	6 - 5
	寸法	W : mm H : mm	

< 参考 2 : 「熱貫流率」用の標準書式 >

試験体及び試験結果の概要

商品名			同等基準 の箇所
試験の区分		熱貫流率	
試験結果			
用途の区分		「非木造住宅サッシ等」又は「木造住宅サッシ等」の いずれかを記入	1 - 1
材質	戸の材質	「アルミ製」～「その他の構造製」のうち、該当 するものを記入	3
	枠の材質	「アルミ製」～「その他の構造製」のうち、該当 するものを記入	
試験機関		研究所 (第三者試験機関以外の場合は、同等基準の要件を満 たすこと理由を附記すること)	4
試験方法		J I S	7 - 1
枠及び戸 (又ははめ殺し部) の構造	ガラスの部分	F L + A + F L	7 - 2
	その他の部分		
戸と枠の取り合い部の構造		図 のとおり	7 - 3
締まり機構		図 のとおり 箇所	7 - 4
開閉形式及び寸法	開閉形式	「引違いの窓(戸は2枚)」～「その他」のうち、 該当するものを記入	7 - 5
	寸法	W : mm H : mm	

### < 参考 3 : 「気密性能」用の標準書式 >

#### 試験体及び試験結果の概要

商品名		同等基準 の箇所	
試験の区分	気密性能		
試験結果			
用途の区分	「非木造住宅サッシ等」又は「木造住宅サッシ等」の いずれかを記入	1 - 1	
戸の材質	「アルミ製」～「その他の構造製」のうち、該当 するものを記入	3	
試験機関	研究所 (第三者試験機関以外の場合は、同等基準の要件を満 たすこと理由を附記すること)	4	
試験方法	J I S	8 - 1	
枠及び戸 (又ははめ殺し部) の構造	ガラスの部分	F L + A + F L	8 - 2
	その他の部分		
戸と枠の取り合い部の構造	図 のとおり	8 - 3	
締まり機構	図 のとおり 箇所	8 - 4	
開閉形式及び寸法	開閉形式	「引違いの窓(戸は2枚)」～「その他」のうち、 該当するものを記入	8 - 5
	寸法	W : mm H : mm	